

# 教育委員会だより

令和7年7月22日号 多治見市教育委員会 教育総務課

くめず子ども像  
お互いを尊重し、  
主体的に学び、  
挑戦する多治見の子

## みんなの心をつなぐ ～挨拶で絆の日～

青少年まちづくり市民会議の皆様を中心に毎年実施されている「挨拶で絆の日」が、今年も7月1日に市内の小中学校で行われました。梅雨空を吹き飛ばすような、子どもたちの元気な声各校の校門や通学路に響きわたりました。

この日は、地域の皆さんが子どもたちの登校時間に合わせて校門などに立ち、温かいあいさつを交わしました。「おはよう!」「いってらっしゃい!」という地域の方々優しい声かけに、登校してきた子どもたちはちょっぴり照れながらも「おはようございます!」と元気いっぱいの声で応えていました。

そんな温かい言葉が飛び交う光景は、子どもたちにとって一日の始まりを気持ちよくスタートさせるだけでなく、地域との繋がりを感じられる大切な時間です。子どもたちの笑顔と地域の皆さんの優しいまなざしが交差するこの運動は、地域全体で子どもたちを見守り、育てていくことの大切さを改めて教えてくれます。地域の皆様、ありがとうございました!

日頃から子どもたちの安全を見守り、温かい声かけをしてくださっている地域の皆様に、心より感謝申し上げます。地域の皆様の支えがあってこそ、子どもたちは安心して学校に通い、健やかに成長することができます。

これからも、地域と学校が一体となって、子どもたちが笑顔で過ごせる環境づくりを進めてまいります。

## みんなと伸びる ～インクルーシブ教育推進委員会～

多治見市では、「インクルーシブ教育推進たじみプラン」に基づき、全ての子どもたちが共に学び、共に育つことができる教育環境の実現を目指しています。これまでの本プランの基本施策の進捗状況をご報告し、今後のより良い推進について意見交換を行うことを目的として、6月26日(木)に第1回多治見市インクルーシブ教育推進委員会が開催されました。

今年度の委員長は、養正小学校の伊藤 桂子校長先生(新任)、副委員長を、兵庫教育大学大学院の宇野 宏幸先生(継続)にお務めいただきます。半数以上の委員が新任となり、それぞれの立場から積極的にご発言いただき議論が深まりました。

事務局からは、基本施策の1から6について、取り組み内容及びこれまでの成果・課題を報告し、それぞれについてご意見をいただきました。委員の皆様からは、これまでの取り組みに対する建設的なご意見や、さらなる発展に向けた活発な提言が多数寄せられました。「具体的な事例を共有することで、各学校での実践をさらに深められるのではないか」「スマイルブックによる情報共有、連携を一層強化していくべきだ」といった、多岐にわたる視点からの貴重なご意見は、今後のインクルーシブ教育推進の大きな力となります。

このように、委員会では、終始和やかながらも真剣な雰囲気の中で、活発な意見交換が行われました。教育委員会と委員の皆様が一体となって、多治見市のインクルーシブ教育をより一層推進していく決意を新たにしました。

この会議は、毎回時間を超過してしまうほどで、インクルーシブ教育へのニーズや期待が大きいのだと実感します。いただいたご意見をプランの具体的な取り組みに落とし込み、多治見の“みんなが伸びる みんなと伸びる 自立を支援する教育”の充実に努めていきます。

## 安全を第一に対応 ～雷注意報・落雷対応マニュアル～

最近、奈良市の学校で落雷による事故が発生し、グラウンドで活動していた複数名の生徒が病院に搬送されました。この事故を受けて、文部科学省は学校に対して落雷事故防止のための注意喚起を行っています。

学校は雷が落ちやすい場所の一つとされ、特に周囲に高い建物や木が少ないグラウンドや、体育館の屋上などは、雷が落ちやすい場所として注意が必要です。そこで多治見市教育委員会では、「雷注意報・落雷対応マニュアル」を作成し、市内全小中学校に周知するとともに、児童生徒の安全を第一に考えた対応を行います。

学校現場では、その場ごとに瞬時の判断が必要となり、難しい決断を迫られると思いますが、日頃から気象情報の早期収集に心がけ、特に下校時に落雷の恐れがある場合は、あらかじめ安全な時間に帰宅させたり、雷鳴がやむまで学校に待機させたりするなど、結果の「空振り」を恐れず、臨機応変な対応を大切にしたいと思います。

